

大谷大学短期大学部 自己点検・評価報告書
2015 年度

仏教科

幼児教育保育科

<自己評定> A	<委員会評定>A
1. 【2015 年度の目標等】	
[目標]	
卒業研究の作成を 2 年間の学修の集大成として位置づけ、さらにきめ細やかな指導体制の充実を図る。	
[達成基準]	
卒業研究提出率 100%を達成する。	
[行動計画]	
2014 年度の行動計画を 2015 年度も引き続き実施するが、特に以下の 2 点を重点的に取り組む。	
① 開講科目シラバスの確認と卒業研究題目の関係性の確認と検討	
<p>仏教科開講科目のシラバスに提示している学修内容・到達目標と、学生に提示する卒業研究題目との有機的連携を明確にするために、シラバスの内容に検討と確認を加え、必要に応じて卒業研究題目の再検討と見直しを行う。</p>	
② 卒業研究の作成の進捗に応じた発表会等の実施	
<p>9 月実施の卒業研究中間発表会に加え、1 年次学生も参加する形で 10 月末に中間発表会を実施する。その他、指導教員・副指導教員によるよりきめ細やかな指導体制を検討し、1 年次の学修から 2 年次の学修へのスムーズな接続がなされるようにする。</p>	
2. 【2015 年度の達成状況報告】	
① 5 月 所属教員会議を開催し、前年度の卒業研究題目の傾向をふまえて、本年度開講科目のシラバスを確認し、学生に提示する卒業研究題目に修正を加えた。また仏教科に開設されている科目等履修生真宗大谷派教師資格取得コースの修了レポート題目決定の方法について、従来の題目決定方法を変更し、卒業研究題目決定と同様の方法とし、指導の充実をはかった。(根拠資料「2015 年度短期仏教科卒業研究・真宗大谷派教師資格取得コース修了レポート題目一覧」および「2015 年度卒業研究題目一覧・真宗大谷派教師資格取得コース修了レポート題目一覧」)	
② 6 月 8 日 実践仏教コース・真宗大谷派教師資格取得コース題目決定相談会実施。(学生・指導教員・副査担当教員参加 会場：講堂棟 5 階談話室)(根拠資料「題目決定相談会」開催案内)	
* 人間とこころコースは指導教員と個別に実施。	
9 月 15 日 一夜研修会(第 1 回中間発表会)実施(学生・指導教員・副査担当教員参加 場所：セミナーハウス)(根拠資料「一夜研修会」開催案内)	
10 月 29 日 第 2 回中間発表会実施(1 年次・2 年次学生・指導教員・副査担当教員参加 場所) 尋源館 J101)(根拠資料「中間発表会」開催案内)	
12 月 1 日 仏教科関係教員会議開催 卒業研究・修了レポート取り組みの状況、口述試問における学生ごとの留意点を指導教員・副査担当教員で確認。(根拠資料「仏教科関係教員会議」開催案内)	
12 月 10～16 日 口述試問実施。試問終了後、学生の状況に応じて追加レポート等の課題を提出させた。また全員に卒業研究・修了レポート要旨を提出させ、『仏教研究紀要』38 号として刊行。(根拠資料「口述試問」日程案内)および『仏教研究紀要』38 号)	

*その他、論文作成のために仏教科一般研究室の開室時間の延長、休日開室を行ったほか、各授業担当者が一般研究室に可能な限り赴き、論文作成指導を随時行った。

3. 【点検・評価】

[効果が上がっている事項]

- ・ 題目決定に時間をかけることによって、その後の論文作成にスムーズに移項できた。
- ・ 2回にわたる発表会の実施により、学生各自の取り組みに対して、学生相互の質疑・議論が従来よりも活発に行われた。
- ・ 本年度卒業研究・修了レポート提出者は、1年次に第2回中間発表会（2014年度より実施）に参加している。1年次に中間発表会に参加したことにより、題目の決定、論文の作成に対する積極的な意識を喚起できた。

[改善すべき事項]

- ・ 卒業研究提出率 100%（2014年度提出率 100%、2015年度は1名未提出）を達成できなかったため、原稿の指導体制に加えて、個々の学生の状況に応じた指導方法を検討し、平素の授業への出席をふまえた論文作成指導の環境を構築する。

4. 【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること

「2015年度短期仏教科卒業研究・真宗大谷派教師資格取得コース修了レポート題目一覧」

「2015年度卒業研究題目一覧・真宗大谷派教師資格取得コース修了レポート題目一覧」

「題目決定相談会」開催案内

「一夜研修会」開催案内

「中間発表会」開催案内

「仏教科関係教員会議」開催案内

「口述試問」日程案内」

「口述試問」日程案内」

『仏教研究紀要』38号

<自己点検・評価委員会使用欄>

<所見>

卒業研究提出率 100%という達成基準を満たすことができなかったが、きめ細かい指導は A 評価に充分値する。

<自己評定> C	<委員会評定> B
1. 【2015 年度の目標等】	
[目標]	
定員の充足	
[達成基準]	
募集定員の充足。2016 年度入学者 20 名を目標とするが、最低でも全収容定員の 50%以上を確保する。	
[行動計画]	
2014 年度の行動計画を 2015 年度も引き続き実施するが、特に以下の点について大学当局・入学センターの協力を仰ぎながら取り組んでいく。	
① 2014 年度の学生募集の取り組みの見直し。 従来の取り組みについて、見直しをはかるべき点、新たに加えるべき取り組みの有無を明確にする。	
② 教科の教育方針と学生の学修の状況をわかりやすく示すことのできる説明資料、広報資料を学科として検討し作成する。	
2. 【2015 年度の達成状況報告】	
① 8 月 20 日 大学見学に来学した高校生に対して、仏教科一般研究室で模擬授業を実施した。(対象：高校生 18 名・高校教員 2 名 時間：1 時間 京都市内高校) *その他、「親鸞エッセイコンテスト」出張講義を担当した教員が、各高校を訪問した際、仏教科の教育理念・学科概要等を各高校進路指導担当者に伝達した（北海道 3 校、長野県 1 校、愛知県 1 校）。仏教科教員が招聘された講演・研修会等において、随時仏教科の教育理念・学科概要等を広報した。	
3. 【点検・評価】	
[効果が上がっている事項]	
・達成基準を満たすには至らなかった。	
[改善すべき事項]	
・大学全体の学生募集活動と連動する目標であるので、大学執行部・入学センターとの緊密な連携・協力のもとに、広報をはじめとする学生募集活動の充実をはかる。	
4. 【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること	
http://www.otani.ac.jp/news/nab3mq0000040wzo.html	

<自己点検・評価委員会使用欄>

<所見>

達成基準を満たすことができなかったが、志望者確保の努力は着実になされており、基準未達成という結果の責任のすべてが学科にのみあるとすることは出来ない。

<自己評定>B	<委員会評定>B
1. 【2015 年度の目標等】	
[目標]	
学生が自分にあった進路・就職先を選択できる環境を整え、支援を充実させる。	
① 就職率 100%をめざす。(※就職率は【就職者／希望者】で計算する。) ② 公務員を志望する学生に対する支援として公務員試験対策を充実させる。	
[達成基準]	
行動計画に挙げた内容を実行した結果、就職率 100%に達した場合、目標達成できたものとする。	
[行動計画]	
① 学科とキャリアセンターとの連携を密にして学生の進路・就職に向けた支援を行う。1 年次からの「進路・就職ガイダンス」(キャリアセンター主催)について学科の指導や行事との関連において、学生の学びの実情に合ったものとなるよう、日程や内容を検討するとともに学生への周知の徹底を図る。 ② 公務員対策として模擬試験および対策講座(4 月、11 月)への参加を促す。公務員を希望する学生については早い時期からの対策が有効であるので、意識づけを含め支援していく。	
2. 【2015 年度の達成状況報告】	
① 就職率(就職者／希望者) 98.7% ② 公立正職員合格率(合格者／受験者) 40% ③ キャリアセンターとの連携に関して 月 1 回のミーティングのなかで、ガイダンス日程・内容、就職状況、公務員試験対策、学生指導に関する情報共有および検討を行い、学科とキャリアセンターとの連携により、「進路・就職ガイダンス」出席者数の増加(※効果が上がっている事項①)、学生指導に関する方法の改善(※効果が上がっている事項②)を行うことができた。 ④ 公務員試験対策に関して 意識づけの強化とともに来年度へ向けての準備を具体的に進められるよう、「公務員対策特別講座」を 2 月に 5 日間の日程で実施した。(今年度からの取り組み)	
3. 【点検・評価】	
[効果が上がっている事項]	
① ガイダンス出席者数の増加 過去のデータより、日程・時限によって学生の出席率が大きく変化していることから、学科行事や授業との関連を考慮し、キャリアセンターと調整を行い、また、掲示や呼びかけにより学生への周知を行った結果、1 年生については計 4 回のガイダンス出席状況は各回とも 93%以上(1 年生在籍数 86 名)の出席であった。 ※第 1 回(4 月) 86 名 100% , 第 2 回(5 月) 82 名 95% 第 3 回(11 月) 80 名 93% , 第 4 回(1 月) 80 名 93% ※推移については別表参照	

<p>② 学生指導に関する方法の改善</p> <p>キャリアセンターからの指導と、学科の指導の行き違いないようにミーティングの際だけでなくこまめに確認しあうことで、学生指導内容の共有、その後の対応の確認を早い段階で行うことができた。</p>
<p>[改善すべき事項]</p>
<p>・行動計画①のキャリアセンターとの連携に関して</p> <p>新設園の増加や認定子ども園へ移行する法人の増加に伴い、採用活動が年々早期化しており、本学の実習時期に採用試験が重なるケースがあり、今後も増えることが予想される。今までにも確認はしていたが、実習期間中に採用試験を受ける際の指導について教務課とも連携するなど、部署間の情報共有を行い、学生に対する直前指導の実施が必要である。来年度のガイダンス日程を追加し、7月に就職活動本番に向けた内容を新設する方向で準備を進めたい。</p>
<p>4. 【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること</p>
<p>会議資料 ガイダンス資料</p>

<p><自己点検・評価委員会使用欄></p>
<p><所見></p> <p>毎月実施されている学科とキャリアセンターとのミーティングにおいてガイダンス日程・内容・就職状況・公務員試験対策等のきめ細かい情報交換や打ち合わせを行い、必要な情報を学生に適切に示すことにより「進路・就職ガイダンス」への出席状況の向上と学びの向上が図れたことは評価できる。そのことは今後就職率の向上につながると考えられる。また、採用活動の早期化に伴う対策や早い時期からの公務員試験対策は重要であり、「進路・就職ガイダンス」や「公務員対策特別講座」への参加等、引き続き全学生に意識づけを強化し、合格率を上げる努力が必要である。評価は B とした。</p>

＜自己評定＞C	＜委員会評定＞C
1. 【2015年度の目標等】	
[目標]	
学生の学習意欲と学力（広義）の向上をめざして、授業の改善を図る。	
[達成基準]	
各科目の授業評価の「総合評価」が前年度より向上していること。	
[行動計画]	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 関連科目間の連携を図り、授業内容を充実させる。 ・ 学科の全教員が担当している「学びの発見」の課題レポートを添削後、意見交換をして、自らの授業を省みる。 	
2. 【2015年度の達成状況報告】	
<p>①学生の総合評価は前年度より向上した。 2014年度前期は4.4、後期は、4.3。2015年度前期は4.5、後期は現時点では不明。前期だけをみると0.1向上している。 他の取り組みとしては、以下のような点があげられる。</p> <p>②1年生の科目の前期・後期の入れ替えを一部行い、学習内容の連続性をはかった。</p> <p>③音楽と体育の連携を図り、保育の表現技術について「音楽リズム」から「リズム運動」への展開を実現した。</p> <p>④「学びの発見」の課題レポートを添削後、学科会議で学生の文章力を確認するとともに、「学びの発見振り返りシート」により学生の声を聞き、各教員が次年度に向けて授業内容の振り返りを行った。</p>	
3. 【点検・評価】	
[効果が上がっている事項]	
2014年と2015年前期の比較では、「総合評価」の向上が見られた。しかしこれにはさまざまな理由が考えられ、2015年度の取り組みによるものかどうかは疑問である。次年度以降にその効果が期待できる取り組みもあり、長期的にみる必要がある。	
[改善すべき事項]	
授業の改善は、開講科目すべてにわたってなされるべきことはいまでもないが、まず学科の教員がかかわるものから取り上げることにして、科目間の連携と「学びの発見」を重点的に見直した。しかし、個々の授業方法の改善、充実も必要であり、その手立てを工夫する必要がある。	
4. 【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること	
「学びの発見振り返りシート」の例	

<自己点検・評価委員会使用欄>

<所見>

達成基準である授業評価アンケートの評価が 0.1P 上昇した理由として学習内容の連続性を図ったことや科目間の共通する事項の学びに関連性を持たせたことが考えられるが、上昇の根拠をさらに明らかにする必要がある。また、評価のなかで落ち込みのある部分について根拠を明らかにしていくことが、授業改善につながると思われる。今後も「学びの発見」の振り返りシートに基づき、学科教員間の授業改善に向けての意見交換や相互の授業参観により授業内容の充実を図っていくことが望まれるため評価は C とした。

<自己評定>A	<委員会評定> A
1. 【2015年度の目標等】	
[目標]地域への貢献	
3カ年計画を終え4年目に入るが、さらに継続・発展させていく。	
①地域の子育て支援活動へ継続的に取り組み、さらに拡充し、拠点化を図る	
②地域貢献と同時に、研究及び学びの場としての役割を明確にする	
[達成基準]	
①「すくすく赤ちゃん広場」の継続	
②紫明学区での子育て支援活動の継続・発展	
③リレー講座の試行及び修正	
[行動計画]	
① 「すくすく赤ちゃん広場」の継続（2015年度も10月実施予定）	
② 北区内における子育て支援活動拡充のため、拠点化を推進する	
③ 大谷幼稚園でのリレー講座は継続する。実習園でも実施できるか働きかけてみる	
④ 施設・設備についての継続的な検討を実施し、文書化した内容をさらに検討していく	
2. 【2015年度の達成状況報告】	
① 「すくすく赤ちゃん広場」を11月6日（金）午前10時～11時30分実施した。	
参加者は、親子さん45組94名（スタッフは学生80名を含めて145名）と大盛況であった。	
*スタッフ：北区民生児童委員会・大谷大学（学生）・北区社会福祉協議会・北保健センター・北子ども支援センターより構成されている。	
② - 1：北区と連携して、「赤ちゃんにこちゃんサロン（5回目～7回目*昨年度は1回目～4回目が実施された）」3回実施した。	
*昨年度（2015.3.2）にはじめて本学で実施し、大変好評だったことから、本年度は3回中2回が本学を会場に実施された。	
5回目は8月7日：紫明幼稚園にて（わらべ歌・手遊び・水遊び等）実施。8組の親子が参加され、スタッフとして学生5名教員3名が関わった。	
6回目は12月4日：大谷大学4号館1階多目的室にて（わらべ歌・手遊び・絵本・ツリー作り等）実施。18組の親子が参加され、スタッフとして学生6名教員1名が関わった。	
7回目は2016年3月4日：大谷大学4号館1階多目的室にて（わらべ歌・手遊び・絵本・保健センターより保健師の方に来ていただき赤ちゃんの健康にかかわるお話等）実施予定。	
*昨年度に引き続き本学は、交通が便利であり室内が明るく安全にも配慮された空間であることから大変好評であり、和やかな雰囲気楽しんでいただけた。	
*北区から、今後もさらに連携の要望が出ている。	
② - 2：北区内における子育て支援事業の一環として、本年度も北保健センターの「2歳児のこころとことばの成長」教室に2回学生ボランティアとして参加している。	
1回目は6月17日：上賀茂児童館にて実施。学生8名教員1名が関わった。	
2回目は1月13日：たかつかさ児童館にて実施。学生8名教員1名が関わった。	

② - 3 : 北区内における子育て支援活動の拡充として、本年度より、京都市保育課主管の子育て支援事業「いないいないばあ教室」を本学において開催してほしいとの強い要望により、4クール(4回/1クール)の16回を実施した。1クルールの内容は①自己紹介、スタイ作り ②離乳食の話 ③健康についての話 ④テーマを決めておしゃべり会であり、この内容を4クール実施した。

*これは「すくすく赤ちゃん広場」「赤ちゃんにこちゃんサロン」の取り組みで大変好評であるとの評価から、京都市の子育て支援事業の北区拠点である楽只保育所との協同で実施した。

第1クール：①5月8日 ②6月8日 ③6月19日 ④7月3日に実施された。

第2クール：①8月7日 ②8月21日 ③9月4日 ④9月18日に実施された。

第3クール：①10月2日 ②10月16日 ③11月20日 ④12月11日に実施された。

第4クール：①12月27日 ②1月15日 ③2月5日 ④2月19日に実施された。

*「いないいないばあ教室」は毎回楽只保育所より2名の担当保育者、本学教員2~4名、学生ボランティア6、7名(各ゼミ毎)が参加し、子育て支援の実際の現場に関わることで学びを深めた。

③大谷幼稚園でのリレー講座実施および行事参加

・大谷幼稚園での本学科教員による子育て講座

第1回 「飛び出す絵本づくり1」 講師：太田智子 参加者：保護者15名

第2回 「飛び出す絵本づくり2」 講師：太田智子 参加者：保護者15名

・藤棚祭りへの参加

2015年8月31日(月)10:00~12:00 主催：大谷幼稚園保護者会

参加者 幼稚園：園児168名 教員18名 保護者約25名

大学：1年生学生86名 教員5名

④施設・設備については、さらに充実させるために試案作りと学内地域貢献事業を調整中である。また現在、北区と子育て支援事業での協定書を締結に向けて調整中である。この件に関しては、京都市保育課からも了承を得ている。

3.【点検・評価】

[効果が上がっている事項]

効果が上がっている事項

目標①としては、「すくすく赤ちゃん広場」と、「赤ちゃんにこちゃんサロン」の継続的な実施を通して、高い評価と信頼関係を築き続けてきた。その結果として本学は、北区内での子育て支援事業において、確固とした位置づけを獲得し続けている。その具体的なものとして北区内の子育て支援事業「いないいないばあ教室」の場として、新たに本学での実施の依頼へと繋がっている。京都市そして北区から来年度も継続実施の要望が来ており、本年度も着実に高い評価と信頼関係を深めることができたと考える。今後も着実に、そして来校された保護者の方々からも高い評価と信頼をいただけるよう、内容の充実と良好な環境としての施設を提供すべく、整備と改善を積極的に進めていくことが重要である。

目標②としては、各子育て支援事業を、保護者支援の視点から見た保育者の役割について、今年度も年度末のレポートでほとんどの学生が「すくすく赤ちゃん広場」から学んだ意義について記述されており、この経験を通して学生たちにとって大きな学習効果が見られたことがわかった。

また本学付属幼稚園である大谷幼稚園との連携強化の一環として「藤棚祭り」への参加もあり、幼稚園のイベントの雰囲気も経験することが出来た。実習生とは違う立場で園児達と接することは、学生にとって、子ども達との多様な関係の作り方を学ぶ良い機会になった。

さらに目標①、目標②を強化充実させるために、現在、北区との協定書締結に向けて調整中であり、学内事業から、公的な地域貢献事業へと着実に進めている。

[改善すべき事項]

- ・行動計画①②については、さらに充実・発展させていく。
- ・行動計画③の学内におけるリレー講座については、学内状況を考慮してじっくり検討していくこととし、大谷幼稚園で実施したような企画を実習園などにも働きかけていく。
- ・行動計画④については、今後は他学科、関係部署と連携を密にしながら、実現していく。
- ・目標②について
学生が子育てボランティア等、積極的に地域と繋がる機会を提供したいが、短期大学は授業の時間割が詰まっていた調整が難しい。そんななか、さらに積極的、継続的に学ぶ機会を作るためには、学科としてどのような援助が出来るかを検討していきたい。

4. 【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること

- ①「すくすく赤ちゃん広場」開催要項（打ち合わせ用）とまとめ冊子
- ②紫明学区子育てサロン「赤ちゃんにこちゃんサロン」の案内ビラ
- ③北保健センターの「2歳児のこころとことばの成長」教室の開催要項
- ④「いないいないばあ教室」の案内ビラ
- ⑤大谷幼稚園「藤棚祭り」の当日の流れ（スタッフ用）

<自己点検・評価委員会使用欄>

<所見>

北区地域子育て支援活動への参画は、地域の連携を深め、子育てに対する学生の意識向上、学習効果の向上につながり評価できる。なかでも「すくすく赤ちゃん広場」は11回継続実施され、充実した取り組みとなり、また、紫明学区の子育て支援事業と連携して3回実施された「赤ちゃんにこちゃんサロン」により子育て支援事業における本学の位置づけは明確になった。限られた時間のなかで継続する取り組み、発展させる取り組みを吟味し、事業への参画を学びの場だけではなく研究の場として生かしていくことが今後の課題である。「リレー講座」は、専門知識や経験を生かした内容で実施されているが、一層の充実が求められる。評価はAとする。